

巻 頭 言

早稲田大学教授
CAUA 会長

後藤 滋樹

先の大震災は数百年に一度の災害だという。現在の経済危機は数百年に一度の歴史の転換点だという。識者の中には文明の没落を唱える向きもある。我々はとてつもない変化の時代を生きている。全く変化のない時代では面白くないが、急激に変化する場合には何を頼りにすれば良いのか分からなくなる。これまでの常識が通用しない。議論の前提が崩れてしまう。

この混沌の中でも多少の手掛かりがある。人類は数百年を無為に過ごしてきたのではない。昔と今とを比べると、現代の我々は圧倒的に豊富な情報を手にしている。もっとも情報通信技術が悪玉であるという説もある。情報通信革命がグローバルゼーションをもたらし、幾多の金融商品を生み出した。それが金融資産の飛躍的な増大を生み出したが、所詮はバブルであり経済危機を招いた。この悪玉論のストーリーを完全に否定するのは難しいが、情報通信は善玉としても活用できる。現に防災、災害からの復旧という形で多くの場面で活躍している。

私が期待しているのは、情報通信技術によって人間社会が強固になること。昔の哲学者であり物理学者、数学者でもあったパスカルが指摘したように、人間社会を一つの生物として捉えれば、絶えず進化し続けている不死の存在である。時には困難な時期を経験するが、そこから教訓を学び成長する。そのようなパスカルの夢想はインターネットにより現実のものになった。ネットワークの上で人間同士を結びつけるサービスが広く使われているのは至極当然である。我々は情報を共有するだけでなく、お互いに学び、議論をして課題を解決する必要がある。そのためにも情報通信技術の一層の発展が求められていることは言うまでもない。